

平成28年度 第15回櫻井徳太郎賞の授賞式

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

平成29年3月11日(土)

板橋区役所において「第15回櫻井徳太郎賞の授賞式」が行われ、本校3年生の布施晴香、2年生の樽井京也、永井淳、中澤祐香、山内浩平、山口智也、増子哲央の計7名が出席しました。

今年は、共同研究「『まぼろし』の講堂を追って - 竣工、解体、そして伝説へ -」（樽井、永井、中澤、山内、山口）、個人研究「国学と水戸学の比較-本居宣長の業績を再検討する-」（布施）、個人研究「視点を変えた『謎の4世紀』 - 朝鮮側の資料から日本の『謎の4世紀』を探る -」（増子）の3本が表彰されました。審査委員で元筑波大学教授の真野俊和先生から、特に講堂の研究について「辰野金吾に師事した講堂設計者の駒杵勤治のような、地方に派遣された設計技師を掘り起こすきっかけとなった意義ある研究」との講評をいただきました。

表彰に続いて最優秀賞に選ばれた「『まぼろし』の講堂を追って」のプレゼンテーションが行われ、来賓の方々から高い評価をいただきました。発表後にコメントを求められた5名は、それぞれ調査に際してご協力いただいた方々に対する感謝の言葉を述べていました。

また、授賞式後の懇親会では、真野先生から、受賞論文のデジタル紀要への投稿や論文を英語で発信する手だてについてご教授いただきました。



『「まぼろし」の講堂を追って』プレゼンテーション